

消防ヒヤリハットデータベース事例回答シート

【事例概要について】

.....

1. 事故・ヒヤリハットの別	事故
2. 体験した事例の名称	建物火災残火処理中における屋根からの転落事故
3. 体験した事例の中心的要素	自分ができる現場活動以上のことをしたことと、安全確認の見落とし
4. 体験した事例の原因・理由	自分自身の不注意

【体験した事例の直接的原因について】

.....

1. 体験した事例の直接的な原因	行動の実行に問題があった。
------------------	---------------

【体験した事例について】

.....

1. 発生日時	平成 5 年 8 月 18 日 午後 5 時頃
2. 発生した当時の天候	雨
3. 発生した活動現場	屋外：建物屋根
4. 体験した事例の種類	回答者が、自分自身で負傷した。
5. 事故の程度（ヒヤリハットの場合、仮に負傷したときの程度）	軽傷の怪我をしていた（させていた）だろう。
6. どのようなことが起きたのか（起きそうになったのか）	墜落・転落、
7. 事例体験時の活動	火災、現場活動中期、 [木造建物]
8. （7の活動中） どのような作業中に発生したか	残火整理、
9. 同様の体験は、これまでにどの程度の頻度で体験していますか。	初めて体験した。

10. ヒヤリハット体験当事者の属性（回答者は当事者A）

○当事者A	年齢[22]歳、勤続年数[2]年、現場経験年数[2]年、階級[消防士]、同様の活動 [1年に数度]、任務 [隊員]
○当事者B	年齢[]歳、勤続年数[]年、現場経験年数[]年、階級[]、同様の活動 []、任務 []
○当事者C	年齢[]歳、勤続年数[]年、現場経験年数[]年、階級[]、同様の活動 []、任務 []
その他 (当事者が4人以上の場合)	

11. 事例発生の経過。

	誰(何)が	なにをした	その他・備考など
経過1	当事者A	別の救助現場より駆けつけポンプ隊として消火活動を開始	
経過2	当事者A	残火処理のため屋根に上がりトタンを剥す作業をしていたところ足元がすべって5m下に転落	剥したトタン上に腰部から転落。腰部打撲、歩行可
経過3	当事者A	腰部痛があったので病院受診	
経過4			
経過5			
経過6			
経過7			
経過8			
経過9			
経過10			

【その事例発生時の状況について】

.....

○事故の場合 : 事故が起きたのはどうしてだと思うか？

ヒヤリハットの場合：ヒヤリハットで済んだのはどうしてだと思うか？

体力、反射神経等身体能力が劣っていた。危険情報を把握、予見できなかった。足元の安全が確保できていなかった。

○心理・体調について

a. あせりを感じていた

・早く、現場到着や、活動をしなければならないという“あせり”を感じていた。	いいえ
・被害拡大が消防活動を上回っており“あせり”を感じていた。	いいえ
・周辺の野次馬などにより“あせり”を感じていた。	いいえ

b. 注意力が欠如していた

・1つの事象に集中し、他の事象への注意力を欠いた。	はい
・活動終息（鎮火等）や活動内容が些細だったため注意力を欠いた。	はい
・体調不良や疲れにより注意力を欠いた。	いいえ

c. 経験・知識が不足していた。

・活動内容が、自己の能力や技量を超えていた。	はい
・活動中に起こりうる危険について認知していなかった。	はい
・活動に対する経験が不足していた。	はい

d. 心身の不調があった

・体調が悪かった。	いいえ
・悩み事があった。	いいえ

○装備・資機材について

e. 資機材の故障・不具合があった。

・装備・資機材自体に問題があった。	いいえ
・装備・資機材の使用方法が誤っていた。	いいえ
・装備・資機材の対処能力を超えていた。	いいえ
・必要とする装備・資機材がなかった。	いいえ

○活動環境について

f. 障害物や自然環境（雨・濃煙）によって視界がさえぎられた。

・障害物（建物等）のため周囲の状況が見えなかった。	いいえ
・特異環境（煙、暗闇、降雨等）のため周囲の状況が見えなかった。	いいえ

g. 行動しにくい環境だった。

・狭隘な場所であった。	いいえ
・暑かった（寒かった）。	はい
・野次馬が多かった。	いいえ
・現場周辺の地理に不案内だった。	いいえ

h. 足場が悪かった。

・足元が躓いたり滑りやすかった。	はい
・足元の強度が不足していた。	いいえ

○指揮・管理について

i. 適切な指示が得られなかった（適切な指示を与えられなかった）。

・活動指示が得られなかった。（無線が通じない等。）	いいえ
・指示内容に誤り・偏りがあった。	いいえ
・指示内容が実施困難であった。（周辺環境に、隊員技量の把握に欠けた。）	いいえ

k. 関係者間の情報伝達・役割分担が不十分だった。

・隊員の連携が不十分だった。	いいえ
・隊員が不足していた。	いいえ

○その他

l. その他の理由があった。

いいえ	
-----	--

【事故発生後の取り組みについて】

.....

○注意力欠如、焦り等の対策について

一歩引いて、周囲を見回しひと呼吸入れるよう心がけている。

○装備・資機材の対策について

自分を守る確保ロープや空気呼吸器などは現場到着前に必ず確認し、不備の無いようにしている。 また、日頃の点検も怠らないように心がけている。

○活動環境の対策について

今回の事例は降雨の中での事故で、現場の環境条件は決してよいものではなかった。危険な環境での現場活動では細心の注意を払い、事故の安全が確保された事を確認してから行動する。

○指揮・情報伝達の対策について

指揮命令伝達が困難な状況下にあっては拡声器やハンドスピーカー等を活用し、確実に命令が伝わるようにする。

事例事例状況図

